

(一)

次の文章は名古屋大学の学生の山下さんが、台湾人の李さんに宛てた手紙です。下線部の A、B、C、D、E のうち最も適切なものを一つ選んで、別紙のマークシート(解答用紙)に記入してください。×は()の中に何も入れる必要がないことを示します。

李さんお元気ですか？12月に台湾に行(1)(A きます、B く、C きました、D った、E きた)時は、いろいろな所を案内して(2)(A あげて、B さしあげる、C いただき、D もらう、E ×)本当にありがとうございました。あの台北101の豪快(3)(A の、B に、C な、D だ、E ×)花火は今でも記憶に新しいです。それから、士林夜市で食べた臭豆腐が大好き(4)(A に、B を、C で、D も、E ×)なったので、また食べ(5)(A ほしい、B てほしい、C たり、D たい、E てたい)です。

わたしは今、北京にいます。昨日の夜、寝台列車で上海(6)(A に、B が、C は、D で、E を)出発して今朝着きました。12時間もかかったので、(7)(A たくさん、B すごく、C いつも、D よく、E 大)疲れました。上海(8)(A に、B には、C にも、D は、E では)買い物をしたり、小籠包を食べ(9)(A て、B る、C たい、D たり、E ×)しました。小籠包(10)(A が、B は、C を、D で、E に)熱かったです、本当においしい(11)(A いです、B いでした、C かった、D かったです、E かったです)。それから、親切(12)(A の、B に、C な、D だ、E ×)タクシ-の運転手(13)(A が、B は、C を、D で、E に)いろいろな所に連れて(14)(A 来てくれます、B 行ってくれます、C 来てくれました、D 行ってくれました、E 来てくれる)。

今日は北京の天安門広場に行ってきました。すごく人が多(15)(A いです、B いでした、C かった、D かったです、E かったです)。それから、有名(16)(A の、B に、C な、D だ、E ×)北京ダックを食べました。でも、うわさほどはおいしく(17)(A ないです、B ないでした、C なかったです、D なかったです、E ありません)。明日は万里の長城に行(18)(A きます、B く、C って、D った、E こう)と思っていましたが、天気が悪(19)(A い、B、 かった、C そう、D みたい、E よう)なので、たぶん(20)(A 行きます、B 行きました、C 行きません、D 行きませんでした、E 行かなかった)。そのかわりに、故宮や北海公園に行(21)(A く、B った、C きます、D きました、E こう)つもりです。中国のホテルは高いですね。外国人専用のホテルがあるので、わたしは中国人の安いホテルには泊ま(22)(A らせていただきますませんでした、B らせていただきました、C らせてもらえませんが、D らせてもらえませんでした、E らせてもらえませんでした)。

そして、あさって(23)(A が、B に、C で、D へ、E ×)日本へ帰る予定です。また、機会が(24)(A あら、B あり、C ある、D あれ、E あろ)ば台湾にも遊び(25)(A に行き、B に来、C をし、D ます、E ×)たいと思っています。その時は、また士林夜市に連れて(26)(A 来てくれ、B 来てあげ、C 来てもらえ、D 行ってあげ、E 行ってもらえ)ますか？それから、日本に(27)(A 参る、B 行く、C いらっしやる、D 遊ぶ、E 旅行)時は是非連絡してください。いろいろな所を案内(28)(A してくれ、B してもらい、C してあげて、D させてさしあげ、E させていただき)ます。それではお元気で！

7月14日 北京のホテルにて 山下幸子

(二)

次の文章は、リリー・フランキー『東京タワー』(扶桑社、2005年)から抜粋したものです。この作品は、映画化・ドラマ化にされたこともあって、ここ数年のベストセラーの一つだと言えるでしょう。以下の引用は、結末に近い、主人公がお母さんの位牌を持って東京タワーにのぼった場面です。下線部のA、B、C、D、Eのうち最も適切なものを一つ選んで、別紙のマークシート(解答用紙)に記入してください。×は()の中に何も入れる必要がないことを示します。

あれから、桜の花は何度か咲いては散ってゆき、また、東京(29)(Aの、Bに、Cと、Dは、Eで)春が訪れた。

六本木ヒルズは完成し、潮留は開発され、東京タワーがすっきりと見えるこの赤羽橋の交差点からの風景も人波も、その頃とは少し(30)(Aも、Bにも、Cとして、Dだけ、Eしか)変わった。

昭和三十三年。六大学野球のスターだった長嶋茂雄が巨人軍に入団。背番号3番の活躍に日本中が沸いた高度成長期。同年十二月、世界最大のテレビ塔として三百三十三メートルの東京タワーは完成し、その鉄塔は大都会・東京のシンボルとなった。

そして現在、デジタル放送への移行に(31)(A伴い、B伴う、C伴っても、D伴ったら、Eともに)、その対応を十分(32)(Aな、Bに、Cで、Dが、Eの)果たせないとされている東京タワーは、取り壊しの方向で話が進められているという。

あの日と同じように快晴の恵まれたこの春の日に、ボクは(33)(A生んで、B生んだら、C生まれて、D生まれたり、E生ませて)初めて東京タワーの展望台へと昇った。

オカンとの約束どおり、小さなバッグ(34)(Aが、Bは、Cで、Dに、E×)位牌を入れて、一緒に昇った。

かつてと違って人もまばらな入口から、老朽化したエレベーターで一気に空へ吸い上げられる。

大展望台をとばして、その(35)(Aまた、Bまで、Cただ、Dたった、Eだった)上、地上二百五十メートルの特別展望台に向った。

眼前に広がる東京の凝縮された風景。ひとつの視界に様々(36)(Aに、Bな、Cで、Dと、Eが)街が一枚の絵になって飛び込んでくる。

「オカン、すごいね……」

オカンが眠りについた(37)(Aこの、Bその、Cあの、Dどの、Eどれ)病院も、すぐ真下に(38)(Aみて、Bみせて、Cみえて、Dみられて、E×)いる。あの時、病室の窓からみんなで見上げたこの東京タワー(39)(Aを、Bへ、Cに、Dと、Eが)、今、僕たちはいて、そこから、あの日の窓を見下ろしている。

オカンが死んだ年の五月にある人は言った。

「東京タワーの上から東京を眺めるとね、気が付くことがあるのよ。地上にいるときにはあまり気が付かないことなんだけれど、東京にはお墓が(40)(A多い、B多くて、Cとても、Dいっぱい、E非常に)あるんだなあって」

確かに、そのとおりだった。緑地の中に、ビルの谷間に、墓地が点在していた。地上に暮らすものが気付かず見落とし、忘れて(41)(Aいても、Bいたら、Cいる、Dいったら、Eいれば)、実際には近代的なビルの間にも、屍が眠っている。

そして、ボクにはこの街全体、(42)(Aこの、Bその、Cあの、Dどの、Eどれ)東京の風景すべてが巨大な霊園に見えた。

ひしめき合って立ち並ぶ長方形のビル群は一つ一つが小さな墓石に(43)(A見る、B見せる、C見える、D見られる、E見よう)。その大小が(44)(Aあって、Bあっても、Cあろう、Dあれば、Eあった)、ここからはたいした区別がない。

遙か地平線の向こうまで広大に広がる巨大な霊園。この街に憧れ、それぞれの故郷から胸をときめか

せてやってきた人々。

この街は、そんな人々の夢、希望、(45)(A 悔しい、B 悔しく、C 悔しむ、D 悔しければ、E 悔しさ)、(46)(A 悲しみ、B 悲しむ、C 悲しんで、D 悲しい、E 悲しもう)を眠らせる、大きな墓場なのかもしれない。

〔省略〕

オカン。(47)(A 昔、B 今、C それ、D あれ、E どれ)までいろいろ、ごめんね。

そして、ありがとうね。オカンに育てて(48)(A もらう、B もらった、C くれる、D くれた、E やった)ことを、ボクは誇りに思っているよ。

東京タワーの窓から広がる空の色は、青くて、ゆっくりと地平線に向いながら(49)(A 白い、B 白く、C 白くて、D 白かった、E 白くなくて)溶けていた。

陽射しが柔らかに、海と街を照らしている。

ボクはずっと遠く(50)(A の、B へ、C と、D まで、E ×)方を見ている。首にかけて小さなバッグから顔をのぞかせているオカンも。

「オカン。今日は天気がいいで、よかったねえ」